

第10回「販売」を軸とした米システムのあり方に関する検討会（20年4月11日、10：00～12：00、農林水産省三番町共用会議室）のプレスリリース配布資料からの修正箇所（下線部分）

（資料1 農業機械、肥料、農薬に係るコスト低減について）

（修正前）

- P9：資料1のP9の2つ目の○ 我が国の肥料流通は、約9割を農協系統が取り扱っており・・・

↓

（修正後）

- P9：資料1のP9の2つ目の○ 我が国の肥料流通は、約8割を農協系統が取り扱っており・・・

（修正前）

- P13：「○ 稲作における肥料費の日米比較」の表中 米国②

↓

（修正後）

- P13：「○ 稲作における肥料費の日米比較」の表中 米国② （カリフォルニア）

（修正前）

- P17：「○ 稲作における農薬費の日米比較」の表中 米国②

↓

（修正後）

- P17：「○ 稲作における農薬費の日米比較」の表中 米国② （カリフォルニア）

（資料2 農業機械業界の取組み）

（修正前）

- P1：農業機械出荷と従業者数の表中平成17年（2005）  
合計519,407（100）、国内360,866（86）、輸出158,541（161）

↓

（修正後）

- P1：農業機械出荷と従業者数の表中平成17年（2005）  
合計517,267（100）、国内360,844（86）、輸出156,424（159）

(資料5 JAえちご上越における稲作に係る生産資材費低減に向けた取組みについて)

(修正前)

- P1の「1 JAの概要等」の下から4行目：管内の米は約110万俵、そのうち70～75万票

↓

(修正後)

- P1の「1 JAの概要等」の下から4行目：管内の米は約110万俵、そのうち70～75万俵